



報徳@なう

発行人:田嶋 享

クラウドファンディング達成!! 感謝

9月14日から10月29日までのクラウドファンディングが始まった報徳食品支援センターのクラウドファンディングは273.7万円を目標250万円に対して109%でした。皆様方のご理解・ご支援のたまものです。ご支援者様の件数ではとりわけ地元の神奈川県西地域が45.5%でした。ご送金いただいた方で住所が見つけれなかった方も地元と見なすと50.8%となります。さらにいえば、地元の方で20名相当の募金をしてとりまとめ送ってきてくれましたが、それも一件と数えています。今回、地元の方々の温かいご支援を頂いたと感謝しております。

報徳食品支援センターメンバー一同、地元と全国の皆様のご支援に感謝するとともにこれからも心を引き締めて頑張つて参ります。

当センターの活動の広がり



当センター副理事長 本岡俊郎

小田原市を中心にフードバンク活動を始めて二年近くなり、食品支援を求めて来られる方が少なくなりました。

どうして報徳食品支援センターの活動を知ったのだろうか?と思う方が多いのです。私たちの活動が次第に知られるようになっていくのが背景にあるのは間違いないでしょう。タウンニュースで何回も活動を紹介されて、多くの市民の方が知られたかも知れませんが、口コミで広がったかもしれません。

コロナ禍の影響を受けて、普通の暮らしをされていた方が次第に生活に困つて、当センターに連絡されてきます。以前には社会福祉協議会など福祉の組織とは無縁だった人ばかりです。

日雇いで暮らしてこられたが、ついに月収が十万円となり借金もある五十代独り暮らしの男性は、国道255線を走つて見つけた報徳食品支援センターの看板を思い出して電話をかけてこられました。

湯本の有名なホテルの調理場で働いていた六十八歳独り暮らしの女性は、月収が次第に減つてしまい、どうしようもなくなりました。すでに当センターの支援を受けていられた人が当センターを紹介してくれました。その人も湯本でお土産屋さんをやっていたが、コロナ禍の中で経営が行き詰つてしまい、ご近所で当センターのボランティア活動をされている方がいて、その方に援けていただいたのです。

今、支援の輪が次々につながつていっています。

す。

また、生活保護者で、難病を抱えていて東京の病院に行く交通費がかさみ、食費を切り詰めている方もいます。通院の交通費は保護費の支給対象外だからです。東京のNPO法人がこの方に当センターを教えられました。

このように私達の周囲でも苦しい状況にある方々が少なからずおられるのですが、次第に我々の存在を知っている方々が増えて来ています。ありがたいことです。

大都会で活動するフードバンクは、支援対象となる人がすごく多いので、実際に支援する対象者をいろいろな条件でふるいに掛けます。まず生活保護受給者は対象外です。支給回数も三回までとか制限します。できるだけ多くの人達を支援するためには仕方がないのです。

(無条件での支援)

しかし、小田原市周辺の市町を含めても人口が三十万人レベルの小田原での活動は違います。困り果てて報徳食品支援センターの扉を叩く方には、条件抜きでとにかくお世話します。

普通の暮らしをしてきて、ここにきて生活がどうしようもなくなった方が、フードバンクの扉を叩くには、実は勇気がいるのです。まずは、「報徳食品支援センターを訪ねてきて良かった」と安心していただきたい

と思っています。生活保護の方も、何故お金が尽きてしまったのか状況を教えていただいてから食品をお渡しします。

「しよつちゆう来られたら困るでしょう?」と言われる事もあります。せいぜい月に一回くらいです。生活に困っている方でも節度はしっかりと保っておられます。大切なのは互いに信頼しあう気持ちです。

コロナ禍も今は落ち着いているかも知れませんが、第六波が襲って来る可能性も否定できません。コロナが大きな台風だとすれば、その台風が過ぎ去った後にも、壊れた家に住まざるを得ない方も大勢います。このような方が再び安心して住めるようになるまでは長い時間がかかります。

私達の活動もこれからが本番だと思っています。クラウドファンディングで大きなご支援をいただきました。その皆様方のご期待に添えるよう頑張つて参ります。

開成町つくしの会配布会で...

10月30日、つくしの会(ひとり親の会)第8回食品配布会を開催いたしました。

お米を子ども一人につき5kg袋を配布したこともあり、あまりの重さに皆さん感動されていました。お子



各家庭用に仕分けしています。

さん3名いる方は重くて驚いてられました。豪華スティックコーヒーセットと、油のセットはインパクトがあり、11月から値上がりがあるこの時期に嬉しいです。

参加者皆さんのご意見です。

今回もやさしい気持ちがかもったたくさん食材をありがとうございます。すべてありがとうございます。感謝申し上げます。今回ポテトフライも、子どもと一緒にあつという間にたいらげました。

ふりかけがなくなりそうだったので助かりました。スティックコーヒーはいろいろな種類があつて「おうちドリンクバー」のように楽しんでいきます。なかなか自分では買わないので嬉しいです。

今回は、お米をたくさん頂き助かります。ほとんどの品物が値上がりしてなかなか買えなくなつたので本当に助かりました。ありがとうございます。

9月にいただいた唐揚げを今日調理しました。ポテトは昨日いただいた物です。みんな喜んでいきます。いただいたお米も美味しく食べています。大変助かっています。



愛川町にブドウの木実れ!!

10月県内愛甲郡愛川町に住む山本祐子さんが訪ねて来られました。愛川町は、神奈川県北西部丹沢山地に接する人口39千人の町です。大きな工業団地があり、外国労働者も多く暮らしています。山本さん夫妻は40歳前後の若い方ですが、町内には生活が苦しい方がおられるのにフードバンクがないので、自分たちで立ち上げようと、相談に來られました。お仕事は自宅でされていて、時間的には十分活動できるとの事です。すでに「フードパントリー&みんなの居場所。ぶどうの木」と名前を付けられて、やる気十分です。愛川町と小田原周辺部は、置かれている環境が似ていることもあるので、立ち上げに協力させていただくことになりました。まず始めに、冷凍ストッカーを貸与させていただきました。冷凍食品を提供できれば喜ばれることは間違いありません。まずはこの年末に行う食品配布会を成功させたいものです。仲間が増えることはいいことです。

編集後記

クラウドファンディングで頂いたお金を大切に有効に使うため、打ち合わせをします。皆様のご期待に添えるように...

